

# 「ネットパトロール」の手法と情報の活用法について



「ネットパトロール」という言葉は、子どもたちのインターネット利用を監視しているようで、よい印象を持っていない人もいるかもしれませんが、子どもたちをネットトラブルから守るためには、大人が子どもたちのインターネットの使い方を知っておく必要があります。

## 「監視」ではなく「見守り」

考え方としては「子どもたちの問題のある行為を見付ける」というのではなく、「子どもたちの利用を見守る中でトラブルに繋がりそうな行動を把握する」ことに重点を置く必要があります。個人が特定される書き込みや画像の投稿など、不適切な書き込みを検出し、いち早く改善させ、子どもたちをトラブルから守ることが大切です。

ピットクルーが行った平成29年度のネットパトロールでは、検出された書き込みの97.7%が「ツイッター」からでした。子どもたちはツイッターを使って、顔を知っている人、知らない人を問わず、様々な人と交友関係を築いています。その繋がり方を知ることがネットパトロールのポイントになります。

## ツイッターの検索方法

ツイッターの中で検索を行いたいときには、検索サイトで下の図のように検索してみてください。

学校名 site:twitter.com X 🔍 検索

※学校名の部分は〇〇中学校のような正式名称だけではなく、子どもたちが普段使う略称なども入れてみましょう



「site:〇〇」を使った検索方法をドメイン指定検索と呼び、これを使うことで検索範囲を指定されたドメインに絞り込むことができます。ドメイン指定検索でツイッターの中から学校名を検索し、それがプロフィール欄に書かれていないか、子どもたちが書き込みの中で自分の学校名を出していないか等を見ていきます。児童生徒の名前等を見つけた場合は、書き込みの中でトラブルに繋がるものがないかを確認しましょう。

子どもたちの使っているツールを知る意味でも、検索してサイトの中を見てみましょう。

## 指導の要点

「インターネットの中に書き込むこと＝悪いこと」ではありません。ツイッターをはじめとする多くのSNSは、アカウントを消してもすぐに新しいものを作ることができます。不適切な書き込みを見つけた場合、それをすぐに消させるのではなく、問題があれば「何がよくないのか」を伝え、子どもたち自身で自分の行動を改善させていくことができるように指導することが大切です。また、見つけた情報を学校が把握しておくことで、日常的な書き込みの中から子どもたちの悩みや、交友関係を知ることにも活用できます。